

修士論文要旨

学籍番号 21GH153 第 号

氏名 席子昕

人文社会科学専攻（コース：文化芸術）

論文題目

地域博物館における展示・公開活動の歩みとその研究
— 日中博物館の比較によって —

周知のように、博物館は文化・知識を普及し、教育を促進する重要な公共施設である。2006年の教育基本法で、日本の教育体系が「生涯学習」を軸とすることになり、博物館は生涯学習社会を実現するための教育機関として、大きく期待されてきた。博物館法により、博物館が所在する地域における教育、学術及び文化の振興、文化観光、その他の活動の推進を図り、もって地域の活力の向上に寄与するよう努めるものとする。しかし、現状から見れば、すべての地域博物館が地域住民と緊密に繋がっているわけではなく、館によって状況が異なっている。そのため、どうすれば博物館が地域づくりの役割をさらに発揮できるのかが、現代社会における多くの博物館が注目している問題である。本論では、展示活動と展示以外の公開活動が順調に行われているかどうかがこの問題を解決する鍵だと考えている。

一方、中国における博物館は21世紀以降、「人本位」「人と物の併せ」「人の発展、喜びに役立つ」が博物館建設の核心となった。日本の博物館と同様に、教育普及は重要な役割となっている。しかし現在、中国博物館事業の中で、大都市の国及び省博物館の発展が日増しに向上しているが、小規模の市県博物館は未だに多くの問題が存在しており、品質にばらつきがある。市県級地域博物館は教育機関の役割を果たしているかどうかは、一概に言えない。

両国博物館に現存する多くの問題に基づいて、本論は展示活動と展示以外の公開活動から着手し、比較を通じて、両国博物館のそれぞれの現状を理解したいと考えている。現に博物館がやっている活動情報を知りながら、中日両国の地域博物館の間にどのような共通点と相違点があるのかを解明することを望んでいる。その上で、互いに参考になる点を探し、両国博物館のこれからの発展に靈感を提供したいと思う。